

トピック ―加工・業務用野菜の最近の動向―

主要野菜の加工・業務用需要は、増加傾向で推移し、平成22年の加工・業務用需要は56%となり、野菜需要量の過半を占めている。その内訳を見ると、カット、冷凍、漬物等に使われる加工原料用の比率が増加し、外食用や中食用の業務用の比率は減少している。

加工・業務用需要に対する国産での供給量を見ると、ばれいしょが最も多く、次いでだいこん、キャベツ、はくさい、たまねぎの順になっている。

一方、農業協同組合等における加工・業務用野菜の品目別取扱量を見ると、ばれいしょが最も多く、次いでたまねぎ、キャベツ、はくさい、だいこんの順になっており、加工・業務用需要に対する国産での供給量の傾向とおおむね同じような傾向となっている。

なお、加工原料用の1分野であり、最近需要の伸びが注目されているカット野菜の原料の比率を見ると、キャベツが最も高く、たまねぎ、だいこんがそれに次いでおり、加工・業務用需要に対する国産での供給量の傾向とは若干異なる傾向が見られる。この理由としては、ばれいしょは直接加工工場で処理されることが多く、カットのニーズが少ないこと、はくさいは漬物需要が多いこと等によるものと思われる。

次号においては、カット野菜の消費動向について紹介する。

加工・業務用野菜取引実態調査及びカット野菜製造者の製造・販売状況調査はこちらから。

主要野菜の加工・業務用需要の動向

(単位: %)

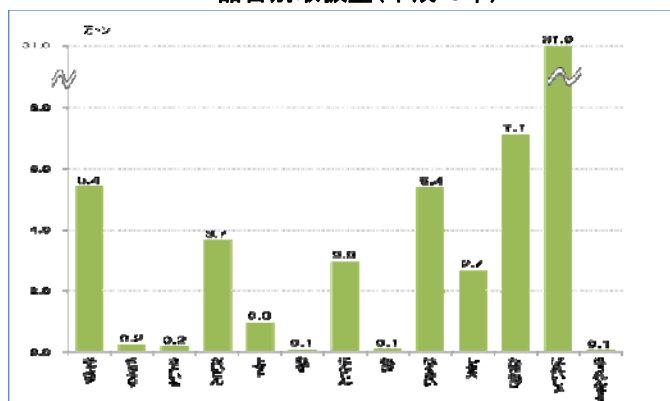
	13品目計			キャベツ			レタス		
	2000年	05年	10年	2000年	05年	10年	2000年	05年	10年
加工・業務用	54	55	56	48	48	50	57	57	58
加工原料用	27	30	32	22	26	29	27	36	37
業務用	27	25	24	26	22	21	30	21	21

	たまねぎ			ねぎ			だいこん		
	2000年	05年	10年	2000年	05年	10年	2000年	05年	10年
加工・業務用	58	59	59	56	61	62	58	58	60
加工原料用	26	29	30	21	25	26	32	32	33
業務用	32	30	29	35	36	36	26	26	27

資料：農林水産政策研究所

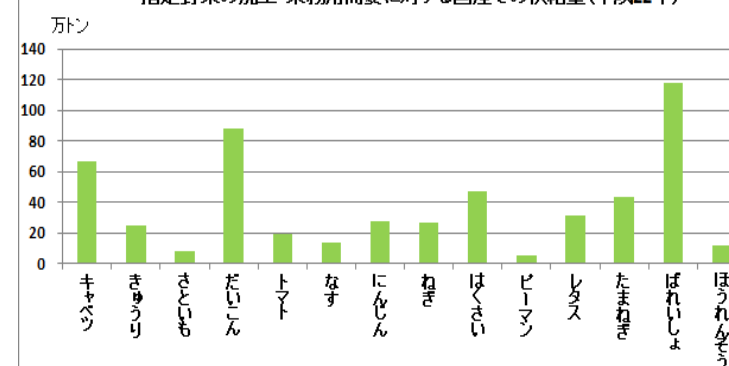
注：主要野菜とは、ばれいしょを除く指定野菜である。

農業協同組合等における加工・業務用野菜の品目別取扱量(平成23年)



資料：農畜産業振興機構「加工・業務用野菜取引実態等調査」

指定野菜の加工・業務用需要に対する国産での供給量(平成22年)

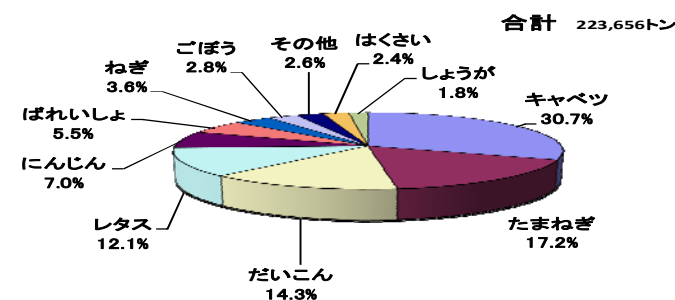


資料：機構作成、原資料：農林水産政策研究所

注：1. 農林水産政策研究所で推計した数字を元に、機構が加工・業務用需要に対するの国産での供給量を推計した。

2. ばれいしょについては、農林水産省が公表しているでん粉用及び加工食品用の数字を用いている。

カット野菜原料の年間使用量の比率(上位10品目数量ベース、平成23年)



資料：農畜産業振興機構「カット野菜製造業者の製造・販売状況調査」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。